

## 5月18日コンテスト説明会 質疑応答

Q1 ドラフト、1次審査、コンテスト本選の審査委員会は全て同じメンバーか。また、それぞれのチームの審査は5名の審査員が全員で担当するのか、1人の審査員が1つのチームを担当するのか。

A1 審査委員会のメンバーは3回全て同じメンバーである。またそれぞれのチームについて5人の審査員全員で審査を行う。

Q2 企業にアンケートをとる場合、コンテスト事務局から学生へのサポートはあるか。

A2 可能な限り自分たちでアプローチをとってほしい。

Q3 実際にビジネスとして成立するような(売上が見込める)アイデアと、SDGs等の社会課題に貢献するアイデアでは、どちらに重きを置いて、アイデアを詰めていくべきか。

A3 両者を等分に評価するので、各チームの得意なアプローチで検討してほしい。

Q4 6月説明会の時間帯は決まっているのか。

A4 午後開催の予定。

Q5 複数の開放特許等を組み合わせたアイデアを提案することは可能か。

A5 可能。

Q6 学生が6月の説明会以外の場でライセンサーにコンタクトすることは可能か。

A6 問題ないが、なるべく6月の説明会で質問するようにしてほしい。

Q7 審査委員はもう決まっているのか。

A7 現在のところ未定。参考として、去年は大学教授、銀行員、中小企業経営者、ビジネスコーディネーター、知的財産室長の5名で審査を行った。

Q8 開放特許を使用したアイデアを用いて実験を行うことや、販売の構想を練ることは法的に問題ないのか。

A8 商行為を行わなければ、特許侵害にはならず、法律上問題ない。

Q9 市場規模の見積もりはどの程度まで細かく分析する必要があるのか。

A9 より詳細に検討をしたチームの方が高い評価を得ることができる。検討の深さに限度はない。

Q10 各項目の審査は絶対評価、相対評価どちらをとるのか(あらかじめ審査員が想定していた満点の基準を超える提案があった場合の他チームの評価との調整について)

A10 相対評価。最終的には全体を見た上で評価の調整は行う。なお、コンテスト本選においては受賞チームのみを発表し、点数は公表しない。

Q11 何チーム以上の応募があった場合、1次審査を予選とするのか。

A11 未定。